

令和7年度 研究・調査企画会議 事後評価部会（第3回）
議事概要

1 日時：令和7年9月25日（木）09：30～11：00

2 場所：食品安全委員会中会議室（Web 会議システムを利用）

3 出席者（8名）五十音順

荒川 宜親 藤田医科大学医学部客員教授

磯 博康 国立健康危機管理研究機構 国際医療協力局
グローバルヘルス政策研究センター センター長

小澤 正吾 元・岩手医科大学教授

鬼武 一夫 日本生活協同組合連合会品質保証本部総合品質保証担当

◎眞鍋 昇 東京大学名誉教授

宮崎 茂 一般財団法人生物科学安全研究所参与

横田恵理子 慶應義塾大学薬学部准教授

四方田千佳子 国立医薬品食品衛生研究所客員研究員

（◎：座長）

その他、食品安全委員会から山本委員長ほか3名が、事務局から中事務局長ほか9名が出席した。

4 議事概要

（1）令和6年度終了研究課題の事後評価結果（案）について

○ 前々回及び前回の事後評価部会のヒアリング審査における各委員の意見を取りまとめて作成した各課題の評価所見（案）について、審議を行った。

○ その結果、各委員からの意見を踏まえて、評価所見（案）の文言に軽微な修正をし、食品安全委員会に報告することとなった。

<事後評価対象課題>

- ・ 誘導泳動法を用いた細胞分離・捕足技術の確立による Viable But Non-Culturable 状態のカンピロバクターの網羅的特性解析
- ・ 食品分野におけるナノ粒子のリスク評価手法検討に関する研究
- ・ 食品関連化学物質のリスク評価におけるリードアクロス手法の適用と信頼性評価に関する研究
- ・ 国際動向に鑑みた食品中の残留農薬に係る発達神経毒性学分野のリスク評価手法に関する研究
- ・ 養殖水産動物における薬剤耐性指標細菌の設定及びモニタリングの試行

- ・ アレルギー誘発性を有する植物に由来するタンパク質の網羅的消化性評価
- ・ 食品に含まれるトランス脂肪酸の摂取量推計に係る研究
- ・ 最新のベンチマーク手法をリスク評価に実装するための課題に関する研究
- ・ リスク評価のデジタル化：情報収集と解析の自動化による省力化と精度向上

（２）食品安全確保総合調査の終了後の評価結果（案）について

令和６年度食品安全確保総合調査課題の終了後の評価結果（案）について事務局から報告され、当該案が了承された。

<評価対象課題>

- ・ アレルゲンを含む食品のファクトシート（落花生）等の作成に向けた科学的知見の調査
- ・ くるみアレルギーに係る食品表示についてのファクトシート作成のための情報収集
- ・ 農薬リスク評価に関する海外状況調査（令和６年度）
- ・ 食品添加物の海外の評価結果及び科学的知見に関する情報収集
- ・ IT・AI を活用した食品安全情報収集システムに関する実証事業
- ・ 食品安全に関する国民の意識の推移を把握するための手法の確立に向けた基礎的調査

－以上－

（注：本部会は個別具体的な研究者や研究課題名及び研究の内容に言及して議論が行われることから、非公開で行った。このため、本会議の議事概要についても、それらが特定されない形で公表するものである。）